

『東北歴史博物館（仮称）』来秋十月オープン

東北歴史資料館 文化財専門監 桑原滋郎

来年の事を言うと「鬼が笑う」そうですが、こう世の中不景気が続くと、誰もが笑顔を忘れてしまいます。鬼の高笑いに釣られて、私たちも少しは明るさを取り戻せるかと思い、この際来年の事を。読者諸賢も「仕事の鬼」を一時お忘れになってリラックスして頂きたいと存じます。

さて、今回ご紹介する『東北歴史博物館（仮称）』は、宮城県多賀城市に出来ます。伊達六十二万石の城下町としてその名も高い大都市「仙台」。俳聖芭蕉が絶賛した日本三景「松島」。丁度その中間あたりに有るのが「多賀城市」です。一見すると、この街変哲もない仙台のベッドタウンですが、何とここには古代東北の行政的中心機関『多賀城』の遺跡が残っているのです。特別史跡「多賀城跡」は、今をときめく「三内丸山遺跡」よりずっと前から良く知られた「老舗」で巨大な遺跡なのです。ですからこの地多賀城市は、東北地方で最も歴史的環境に恵まれている、と言っても決して大袈裟ではありません。『東北歴史博物館』の建設地としてこれ以上の場所は望めません。

実は今から二十五年ほど前、この度博物館が建つごく近くに『東北歴史資料館』が建設されました。以来、宮城県立の機関ですが、範囲を県内に限定することなく、東北全域を対象として、歴史資料の収集・保存、研究・公開活動を行ってきました。自画自賛の誹りを承知で、思いつくまま二、三成果を挙げますと、旧人・原人の文化を日本で初めて突き止めた事（数十万年前）、貝塚を細かに発掘調査し、縄文人の四季折々の生業活動を明らかにした事（数千年前）、また江戸時代の文書を詳しく読み、知られざる当時の庶民生活（特に農村）を明らかにした事（近世）、徐々に消えゆ

く三陸の漁業習俗を詳細に記録した事（近現代）などがありました。これらの成果は、その都度マスコミを通してニュース報道されたこともありますし、特別に展示を企画し公開しましたので、ご記憶の方もいらっしゃるのではないかと思います。

また、資料館には数十年来特別史跡『多賀城跡』の解明に努め、その結果を生かしながら歴史公園＝「多賀城跡」を整備する「宮城県多賀城跡調査研究所」が同居していますので、両者協力して発掘調査成果の展示や歴史公園の解説・紹介も積極的に行ってきました。「多賀城跡巡り」などは他に例を見ないユニークなもので、訪れる人々の大好評を得ているかと自負しています。

開館当時は規模も大きく、資料＝文化財の材質別に温湿度を変えて保存する、といった日本初の試みを行い、最新を誇ったものですが、近頃ではすっかり狭くなり、古びて故障も目立ち始めました。そこで心機一転出直すことになり、七、八年前から計画を練ってきたわけです。一五〇〇〇平米の新築の建物は既にほぼ完成し、植栽を残すだけになりました。名称も、何となくカビ臭い印象を与える「資料館」から「博物館」に変える予定です。今は超過勤務も厭わず、全員で展示など開館準備に大わらわです。

では、オープンした積もりで、新しい『東北歴史博物館』をご案内いたしましょう。キャッチフレーズは「歴史を体感できるミュージアム」です。何と言っても目玉は一五〇〇平米もある「総合展示」です。ここでは東北の歴史全体を理解していただくため、近現代から旧石器時代までの数十万年を九時代に区切っています。ふつうは時代を追って見ていきますが、全体を一時に見ると疲労

困憊する事請け合いですから、ここでは出入り口を四箇所設け、各自好みの時代を見ることも出来るように工夫しました。

ゆったりしたロビーを挟んで総合展示室と向かい合わせに特別展示室があります。開館記念特別展示として「東北の神と仏」を予定しています。最近心の荒廃がしきりに叫ばれています。東北の祖先は厳しい自然条件中を懸命に生きてきました。彼らはどのような信仰を持っていたのでしょうか。それを知ることによって、我々の「明日の指針」を少しでも見いだせたらと思います。

民俗行事や芸能＝無形文化財が東北地方には実に多く残っています。映像展示室では、これらの文化財に込められた人々の祈りや思いを紹介します。また宮城県北に残っていた江戸時代中期（二百数十年前）の肝入り屋敷「今野家住宅」を移築復元して、四季折々の生活や行事を体験できるような「屋外展示場」も造ります。いろいろ端で民話など聞けたらさぞ心と和むことでしょう。「ドブクロも！……」いいですねえー。

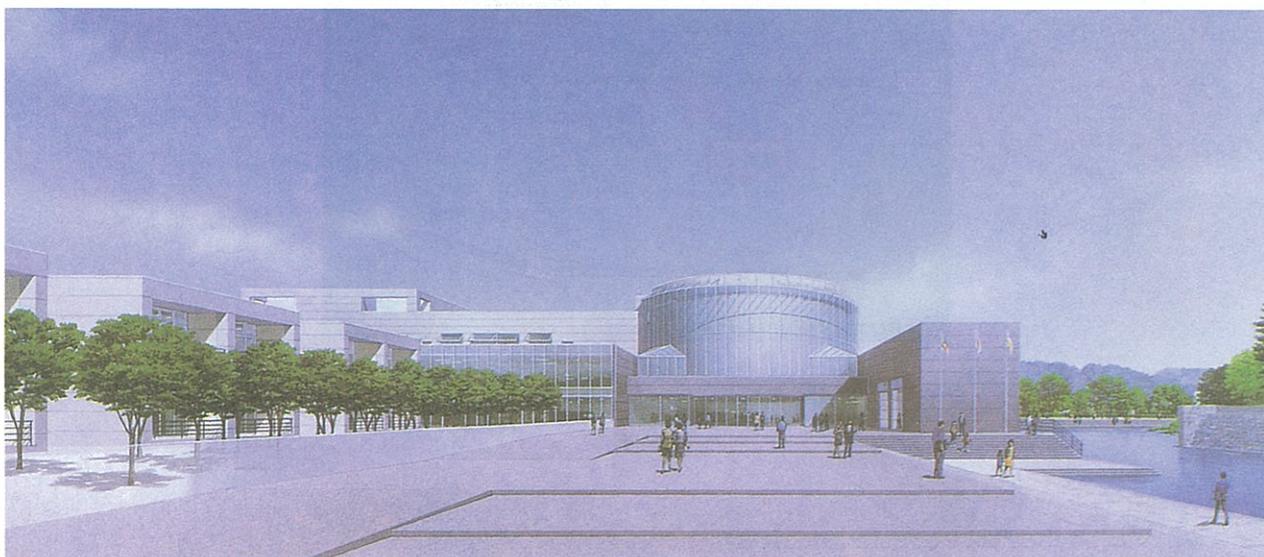
博物館と言えどどうしても堅苦しくなってしまう、子供にあまり人気がありません。しかし、幼

い内から歴史に親しむのは肝心です。そこで新しい試みとして、「こども歴史館」を造ってみました。クラス単位の子供たちがボタンを操作して参加する大型映像、パソコンを使いゲーム感覚で歴史に親しんだり、伝統的な生活や技術の体験コーナーも用意します。

東北を代表する大遺跡「多賀城跡」に近い利点は従来通り十分活かしていきたいと思います。博物館を「屋内の展示」と、そして「多賀城跡歴史公園」を「屋外の展示」と位置付け、両者を一体的に捉えて、種々の活動が出来たなら、他に例を見ない素晴らしい博物館となることでしょう。

本館の東側に大きな池を造ります。夜間はガス灯を点けますのでムード満点疑い無しです。この池には北から舞台がせり出しています。十年以上前から多賀城跡などで行われてきた「多賀城薪能」も開催可能かと、大いに楽しみです。

開館まであと一年足らずになりました。ぬかりなく準備するつもりですが、堅苦しく「学習々々」だけにはならないよう、潤いのある博物館を心がけたいと思います。どうぞご期待下さい。



利用案内

1. 所在地

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎一丁目

2. 開・閉館日、開館時間、料金、電話・ファックス等々……未定

3. 交通

JR東北本線 「陸前山王駅」下車、徒歩二十分、タクシー無し

〃 「本塩釜駅」下車、タクシー五分・徒歩二十五分

JR仙台石巻線「多賀城駅」・「下馬駅」下車、タクシー十五分

車を利用する場合は、国道45号線或いは県道泉－塩釜線

